

平和 今度こそ

スーダン 内戦後初の総選挙

内戦などで多くの避難民を生んだアフリカ北東部の国・スーダン。毎日新聞が06年の「世界子ども救援キャンペーン」で報じた、NGO「日本国際ボランティアセンター」(JVC、東京)による自動車整備士育成プロジェクトが今年3月、終了した。内戦後初の総選挙の投票が13日まで行われ、政争による混乱はあるが、住民には「今度こそ戦争のない社会を」と期待が高まっているという。現地の様子をこのほど帰国したJVCのスーダン代表、今井高樹さん(47)に聞いた。

【田辺一城】

「高い参加意識」日本NGO代表

■現地人の手で 激戦地だった南部の中心都市ジュバ。JVCは内戦終結の05年、車両整備工場で現地の

人々に日本の技術を教えた。同一人物が何度か訪れた。舗装道路はえ始めた。舗装道路はわずかで悪路が多いため、復興のため整備士の育成は急務だった。計32人の整備士を育て、3月末で地元団体に運営を引き継いだ。

今井さんは「単立った整備士の多くが学んだ技術を生かし働いている」と喜ぶ。

ある。同一人物が何度か訪れた。舗装道路はえ始めた。舗装道路はわずかで悪路が多いため、復興のため整備士の育成は急務だった。計32人の整備士を育て、3月末で地元団体に運営を引き継いだ。

きたり、バスでは隣の人にマニフェストを渡す若者もあり、今井さんは「(多くは)初めての体験。参加意識は高く、選挙という『イベント』を楽しんでいる」と言う。

JVCが今年度から新たな活動場所に選んだのは、スーダン中部の南コルドファン州。内戦の傷跡が深く、住民感情は今も複雑だ。そこで平和な社会づくりを進める。今井さんは「学校を作り、井戸を補修。『何でも屋』に徹してコミュニケーション再建を手伝いたい」と意気込んでいる。



今井高樹さん



総選挙の有権者登録を呼びかけるポスターが木に掲示されていたスーダン中央部の南コルドファン州で昨年11月、今井さん撮影



■初体験の民主主義 スーダン総選挙は大統領や州知事など6種類の投票を11月13日に同時実施。現職再選が濃厚な大統領選より、身近な州知事選・議会選がヒートアップして